

『読書力』

岩波新書
著者：齋藤 孝
2002年発行

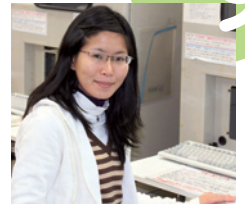


今回、どの本を薦めようかいろいろ迷いました。まず思いついたのが、中学生の頃に読んだトルストイの『人生論』です。人生（の遺産）として最も価値あるのは人生そのものだから、より良く生きるという自覚がない限り人生が始まったとはいえないという話だったと記憶しています。福沢諭吉も『学問のすすめ』で衣食住を得るだけで満足するのは蟻と何ら変らなないと述べていますが、古今東西、人生の達人はより良く生きることを意識していたようです。

経済学部の教員なので、やはり経済書を薦めるべきかとも思いました。経済書ではイースタリー『エコノミスト南の貧困と闘う』（東洋経済新報社）が薦めです。経済学は稀少資源配分の学問だと教えられていますが、おそらくより重要なのは、人々のやる気（インセンティブ）を引き出すシステムの構築です。本書はこの点から貧困問題を説明する非常に経済学的な本です。あるいは、古典を紹介すべきでしょうか。アダム・スミスとか、ハイエクやあるいは流行のドラッカーなど。

しかし、はたと気がつきまます。皆さんはここで薦めた本を読んでくれるのだろうか。読書が大事なのはわかっているけど、実際には読書していないという人が多いのではないだろうか。習慣がない人は、いつでも出来そうである程度ではないでしょうか。私も同じ問題を抱えていて、読書はある程度スピードがないと大変に感じてしまつたから、英語の勉強はテレビや映画に頼りがちです。さらに、学生の皆さんは、テレビ、インターネット、携帯、バイト、友人との交流、部活（そして勉強）など読書が出来ない理由を多く抱えています。そこで、まずは、齋藤孝『読書力』をお薦めすることにします。読書がなぜ必要か、どれだけ必要か、どのように読書をするのかを明瞭に説明していますので、読書を始めるきっかけになるでしょう。ただし、本書では読書力の目安を4年で「文庫100冊+新書50冊」としています。岡大生の皆さんには1年間での目安にして欲しいところです。

学生スタッフ コラム 9



寒さが身に沁みる季節となりました。こんなに寒いと心まで凍えてしまいそうではありません。人と人とのつながりで心を温めたい。けれども寒いからひきこもってネットをしている私…。そんな私の「出会い」にまつわるエピソードを書いてみました。

以前実家の物置を整理していた際、母親の古いアルバムを発見した。めくってみると母親の写真だけでなく、たくさんの列車の写真も収められていた。母親が列車好きとは思えなかったので写真の出所を聞くと、当時文通をしていた男性から送られてきたものらしい。しかも友人の紹介で始めた文通だそうで、実際にその方とは会ったことがないとのことだった。顔も知らない誰かとの交流。インターネットの普及に伴い、現在ではその機会も格段に増えたのではないだろうか。

私は最近インターネット上で知り合った方と実際に会う機会に恵まれた。その方は芸術家で、アメーバビッグという自分の分身であるアバターを使用したチャットを通して知り合ったのだった。個展を開催する日程と、私が東京へ行く予定がちょうど合致したので会って来たのだが、彼とはホテルのチェックイン時間を30分延ばしたほど話が弾んだ。

しかし、よく考えると自分よりも二回りも上の方と会ったのである。普通だったら、会社の上司であったり学校の先生であったりと、対等に話すことのない年齢の方だ。そのような方と親しく言葉を交わすことができたのである。

思い返すと、私が小学生の時に、初めて家庭にデスクトップのパソコンが置かれるようになり、その後インターネットが急速に普及した。誰しもが感じている

ことだろうが、インターネットの普及によって私たちの交流のあり方はずいぶんと変化している。それが、先述の経験然り、以前にまして、より深く感じるようになったのだ。今やインターネットがあることが当たり前の時代、大人から子供まで幅広い世代がネットの海の中に混在している。それによって引き起こされるトラブルも多いが、すべての世代が同じ地平で意見を交わすことができるのは実に興味深いことだと思う。

便利な時代になったと思うと同時に、こつこつと過去の事を振り返ることのできる年齢になってきているのだと気づかされた。まだ22歳ではあるが、最近「時代の流れ」というものを少し感じるようになってきている。

先日ラジオを聞いて、自分が知っている歌が昔の曲として紹介されていてハッとさせられた。私が生きていた時代も、もう昔と呼ばれる部類に入りかけている。これから過去を振り返る機会も徐々に増えていくことだろう。振り返る機会が多くなるにつれ、今まで自分が出会ってきた人々が重要な意味を帯びてくるに違いない。

どのような出会い方にして、人との出会いは大切にしていきたいと思った次第だ。

(学生広報スタッフ 弓削あずさ)

